

2026年8月19日
セーフィー株式会社

セーフィー、クマの出没を即時に通知「AI-App クマ検知」を9月1日より提供開始 遠隔から安全に状況を確認しクマ被害ゼロを目指す、映像×AIの現場AXソリューション

クラウド録画サービスシェアNo.1（※1）のセーフィー株式会社（東京都品川区、代表取締役社長CEO 佐渡島 隆平、以下「セーフィー」）は、クラウドカメラの映像とAIを掛け合わせ、クマの出没を自動で検知し即時に通知する「AI-App（アイアップ） クマ検知」を、2026年9月1日より提供開始することをお知らせいたします。

本サービスはセーフィーの既設カメラで利用が可能となり、導入にかかる手間や時間などのコストを大幅に抑えつつ利用を開始していただけます。建設やインフラ、公共などの現場、住宅街や商業施設、学校、観光地において、即時性のあるクマ検知により迅速な初動対応を可能にします。



アイアップ AI-App クマ検知

■本サービス開発および提供の背景

昨今、東北や北海道、北関東といった地域をはじめ、全国各地でクマが市街地に出没する「アーバンベア」の問題や深刻な人身被害が、喫緊の社会課題となっています。本年のクマの出没情報は6,000件を超え、令和6年及び7年の同時期に比べて倍増（※2）しています。人身被害者数はおおむね同水準であるものの、死亡者数が今年度に入っすでに6名に達しており、クマ被害対策は令和における新たな防災対策として一層の強化が急務となっています。

これまでの現場対策は目撃者の「通報」に依拠するものが中心でしたが、通報を受けた時点ですでにクマが移動していたり、夜間や山間部では発見そのものが遅れたりと、即時性の確保に課題を抱えていました。

また、クマの出没は、例年、秋季にピークを迎える傾向にあり、こうした現場の切実な要請に応えるべく、自社のAIソリューションプラットフォーム「Safie AI Studio（セーフィー エーアイ スタジオ）」上で開発・実装した「AI-App クマ検知」を、この度正式に提供開始いたします。

■「AI-App クマ検知」の特長と仕様

①独自のAIによるクマ検知と、夜間・暗所への対応

独自のAIが、カメラ映像からクマを自動で検知します。夜間でも撮影できるカメラと組み合わせることで、昼夜を問わず広範囲の検知を実現し、現場の安全を守ります。

②現場の初動を迅速化する「通知・遠隔確認システム」

クマを検知した直後、管理者へのメール通知に加え、別のアプリケーションに自動で知らせる仕組み（Webhook）を通じて、社内チャットや警戒アラート灯、電光掲示板といった外部設備とも連動が可能です。検知データはクラウド上の検知結果一覧で一括管理できるため、現場状況の把握から迅速な意思決定までをシームレスに支援します。

③AIソリューションプラットフォーム「Safie AI Studio」を活用したAIサービス

セーフィーは2025年1月より約1年にわたり、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／データ・生成AIの利活用に係る先進事例に関する調査」に採択された「AIソリューションプラットフォーム」事業を通じ、さまざまな現場で映像AIソリューションの開発に取り組んできました。本サービスは上記取り組みで創出された、セーフィーが提供している開発者向けプラットフォーム「Safie AI Studio（セーフィー エーアイ スタジオ）」（※3）上で動物検知AI技術を活用し開発したAIサービスです。

【サービス概要図】



■利用・導入イメージ

市街地・山間部を問わず、幅広く対応が可能です。

生活圏・公共エリア	市街地公共施設、学校、河川、公園周辺の避難誘導・警告用
事業者向け施設	工場、インフラ施設、太陽光・エネルギー施設、屋外レジャー・観光施設
商業・流通エリア	市街地近隣の商業施設、駐車場など
建設現場	山間部の工事現場・道路、資材置き場周辺など

■実際の課題／ニーズ

2026年7月1日の「AI-App（アイアップ）クマ検知+みまもりパッケージ（仮）」（※4）先行プレスリリース以来、各自治体やインフラ企業を中心に、現場の課題に即した多種多様な導入検討のお問い合わせを数多くいただいております。一部の具体例をご紹介します。

【地域自治体・教育現場】

- ・ 目撃通報を待つことによる発見の遅れの解消
- ・ 一刻も早い検知と、通学路・小中学校・住宅街の住民安全確保

【商業施設】

- ・ 東北など出没多発地域に施設を持つ商業施設における、来店客・従業員の安全確保

【建設現場・インフラ施設】

- ・ 建設現場における作業員の安全確保と迅速な初動対応
- ・ 山間部発電所等におけるクマ出没に伴う従業員・作業員の安全確保と対策強化

【高速道路・交通インフラ】

- ・ 高速道路本線へのクマ侵入の即時検知
- ・ 山間部やSA・PA等における、一般利用者および従業員の安全確保と確かな安心の提供

■今後の予定と目指す未来

「AI-App クマ検知」の本格提供に伴い、対策を急ぐ自治体や各事業者の声をいただきながら現場でお役に立てるソリューションの開発を推進してまいります。

また、クマの他にも、イノシシやシカ、サル等の野生鳥獣による農作物の甚大な被害が、全国的に深刻な課題となっています。セーフィーは、「AI-App クマ検知」とは別に、こうした野生鳥獣を検知するAIサービスの提供についても、今後検討していく所存です。

セーフィーは、映像データとAIを活用し、社会課題やあらゆる業種の課題を自律的に解決・判断できるサービスを展開していく予定です。安心安全を基盤とした持続可能な社会を実現し、「現場AX」の社会実装を加速してまいります。

(※1) テクノ・システム・リサーチ社調べ「ネットワークカメラのクラウド録画サービス市場調査（2025）」より、エンジン別カメラ登録台数ベースのシェア（54.3%）

(※2) 第5回クマ被害対策等に関する関係閣僚会議より：https://www.kantei.go.jp/jp/pages/20260731choukan_kuma.html

(※3) 「Safie AI Studio」については右記URLをご参照ください：<https://safie.jp/ai-studio/>

(※4) 「AI-App（アイアップ）クマ検知+みまもりパッケージ（仮）」については右記URLをご参照ください：<https://safie.co.jp/news/4919/>

* セーフィーは「セーフィー データ憲章」に基づき、カメラの利用目的別通知の必要性から、設置事業者への依頼や運用整備を逐次行っております。

本件が2026年12月期通期業績に与える影響は軽微であります。今後、公表すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

【本件に関するお問合せ先】

セーフィー株式会社 IR担当 Email:ir@safie.jp